

郷土の偉人・大島有隣
——石門心学入門⑤——

人足寄場は、罪を犯した人や、無宿の人（戸籍から外された人）たちなどを、社会復帰に向け、職業訓練する施設でした。

人足寄場が設けられた背景には、天明の大飢饉（一七八二～一七八八）の影響で、民衆の江戸への流入により、治安が悪化したことなどがあります。いくら犯罪人等を収容し、生業を授けても、それだけでは再犯に走る可能性もあります。彼らの社会復帰を考えた場合、人間性を改める教育的処遇を施すことも重要だったのです。

そこで松平定信は、軽妙な話で道徳が語られる石門心学というものに着目し、その泰斗である中沢道二を人足寄場の教諭方としたのでした。この定信と道二との関係については、多くの逸話があります。史実かどうかを別とすれば、一説には、「心学」という名称を命名したのも、松平定信その人であるという言い伝えもあります。そのようなエピソードが数多く残っていること自体、道二と定信との関係が、相当太いパイプであったことを物語

っているといえるでしょう。

また、中沢道二は、石田梅岩が「性」と言い、手島堵庵が「本心」と言った心学要旨を、独自の「道」という言葉であらわしました。

一方、松平定信の自叙伝である『宇下人言』中には、「…此のころ（天明元年）より信友多く交りてかたみに道を講じたり…」とあります。ここでいう道が心学を指しているかはさておき、まさしくその頃、すなわち定信が幕閣の責任者である老中となる以前から道二の咄（心学道話）を聴いていたのは確かです。いずれにしても、人の道とは主観的な心でありながら、客観的な規範でもあることを、笑いを交えて、わかりやすく教え諭す道二の心学道話は、文字通り人足寄場の無宿の人たちの心にも響いていたようです。それは、道二が愛弟子関口保宣に宛てた書状中にも見ることが出来ます。（つづく）



松平 定信

（社会教育課 町史・文化財担当編）

みんなでつくる 愛される図書館③

問合せ

町立図書館 ☎ (33) 4056

図書館の本を借りる場合、まず図書館利用カードの申請が必要となります。

図書館利用カードは図書館または各公民館で作成できます。カードを作成したら早速本を借りてみましょう！

本の貸出でできる3つのこと

①本を近くの公民館で借りることができる！
最寄りの町内公民館にお届けして、そこで借りることもできます。

②所蔵していない本もリクエストすることができる！
読みたい本が杉戸町の図書館にはない場合、「リクエスト用紙」を記入してご提出ください。本の購入を検討します。

「読みたい本がないな」という時でも、諦めずにどうぞ図書館にご相談ください。

③県内の他市町村から図書を取り寄せて借りることができる！

図書館で希望した本が購入できない場合でも、「相互借受」といって他市町村の所蔵している本を県の相互収集車を通じて借りることができます。

